



第34回日本乳癌検診学会学術総会報告

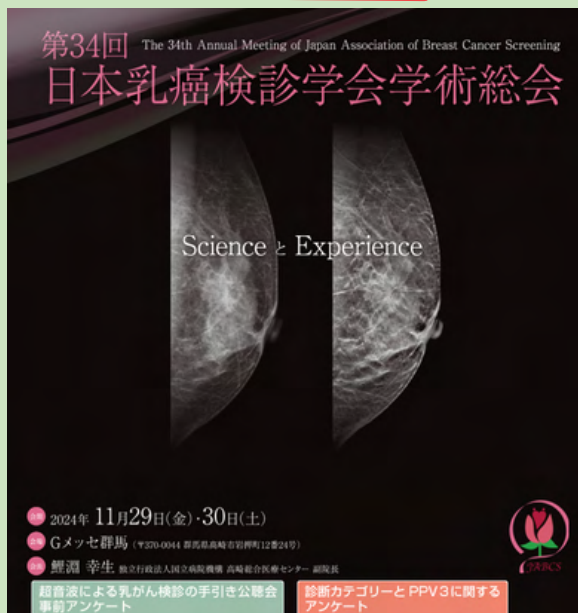
第34回日本乳癌検診学会学術総会が11月29日・30日群馬県高崎市で開催されました。パネルディスカッション「遺伝的ハイリスク群の乳癌検診」で当科の長塚医師が「当院BRCA病的バリエント保持者へのサーベイランス体制と実際」という演題で発表し、6題の発表のあとで野水が「特別発言」をしてきました。6演題ともHBOC（BRCA遺伝子に関連する遺伝性乳癌）のサーベイランス体制、一部は未発症血縁者に対する検診にまで言及した内容でした。10年前の第24回学術集会（この時も群馬県前橋市で開催）でも「ハイリスク女性に対する検診をどうするか」というワークショップがもたれ、中村清吾先生（前日本乳癌学会理事長）と野水が司会を担当し、当科から「検診で発見された非触知の家族性乳癌10例」が発表されました。この10年で、BRCA遺伝学的検査・予防的手術・MRIサーベイランスなど遺伝性乳癌患者の診療体制は飛躍的に拡充されてきましたが、未発症血縁者に関しては保険診療に壁があり、自費診療のままにとどまっています。予防的見地からは、この未発症血縁者（BRCA病的バリエント保持者）に対するスクリーニング・サーベイランスが重要なのですが、「病気になっていない人を保険診療で対処できるか（その場合生命保険やがん保険などの医療保険との絡みはどうなるのか）」、「保険診療ではなく公費検診などを限られた集団にのみ行ってよいのか」、など難しい問題がたくさんあります。

学術集会ではこのほか検診精度に関するパネルディスカッションやマンモグラフィ読影実技など多くの興味ある企画が組まれ、明日からの郡山市の乳癌検診に大いに役立つものでした。

（文責：野水 整）

第34回日本乳癌検診学会学術総会

11月29日・30日 群馬県高崎市で
開催されました



治療実績

乳がん検診受診者数（10月）



郡山市乳がん検診	99件
郡山市を除く自治体乳がん検診	40件
ドック職域検診を含む任意型検診	171件

乳腺外来新患者数（10月）

乳腺新患者様	54件
（紹介の患者様）	24件
（2次検査の患者様）	30件
（乳がんの患者様）	19件

手術数

10月乳房全切除	16件	10月乳房部分切除	7件
1月～10月合計	143件	1月～10月合計	67件